



甲賀流忍者調査団



磯田道史 × 畑中英二

～新たな甲賀の歴史を紐解くために～



『新たな歴史を
市民と一緒に
紐解く』

甲賀流忍者調査団 副団長 はたなかえいじ
京都市立芸術大学 准教授 畑中英二氏



『歴史の陰に
甲賀の
人々がいる』

甲賀流忍者調査団 団長 いそだみちふみ
国際日本文化研究センター 准教授 磯田道史氏

古来より全国で活躍し、陰で歴史を動かしてきたと言っても過言でない「忍者」。その実像解明に向けて結成した甲賀流忍者調査団の団長 磯田道史さんと副団長 畑中英二さんに甲賀市や甲賀流忍者の魅力について語っていただきました。

甲賀忍者の

価値・魅力とは？

磯田 甲賀はすぐく素敵なまちです。自然はいっぱいだし、住みやすい甲賀のまち。そして、甲賀が日本はおろか世界に一番誇れる文化、世界中の人たちがびっくりするようなものと言え、やっぱり「忍者」でしょう。

ところが、この忍者が未だに隠れていますね。甲賀の忍者については、甲賀にお住まいの方も興味があるでしょうが、日本中いや世界中の人たちが忍者に興味を持っています。

甲賀は、一般の家庭の中に忍者の資料がよく残っています。世界で一番忍者に関するものが元のままで残っています。

今、自治体が独自のまちらしさを打ち出さないといけない自治体間競争の時代に入っています。甲賀というまちには忍者がいたまちであり、今もなお忍者の文化財を保存し続けているまちというのを自分たちの誇りに思っています。

だきたいです。また、忍者というツールを使って、甲賀のまちにいろんなお客さんが来てくださることもまちの発展にとって良いことだと思います。

畑中 忍者の価値というところが、忍者的の子孫である渡辺家をはじめ過去の出来事と今が甲賀ではつながりやすいところがあります。忍者の日記念事業として2月に開催したパネルディスカッションでは、磯田先生や渡辺さんがパネラーとして渡辺家の古文書に書かれた歴史や忍者の話語ることで、市民の方が地域のことを知るのに非常に有効だったのではないかと思います。

磯田 やっぱり忍者の魅力は、いるんだけど、いるかいないか分からないところ。実は、歴史に非常に重要な動きをしているんだけどそれが分かりにくい。

例えば、以前テレビ番組で、織田信長の本能寺の変について収録をしました。その時に、明智光秀がどのように行動したかをやりました。本能寺の変の後、明智光秀は安土城を奪い取ろうとしてやってきます。その際、瀬田までやって来ましたが、橋が焼き落とされていました。これは、甲賀の山岡道阿弥の仕業だったわけです。織田信長がうたれた時、この明智光秀の政権は長く続かないと見て、瀬田の唐橋を焼け落とし、明智光秀がこちら側にくるのを邪魔したのです。

また、山岡道阿弥は関ヶ原の合戦の際も徳川家康に情報を送り続け、天下分け目の戦の帰趨を決する影の立役者となるわけです。こういう歴史の陰に甲賀の人々がいるのです。

他にも、室町時代の足利幕府が滅びようとした時、將軍足利義昭もこの甲賀に長く潜伏していました。ですから、甲賀といふのは皆さんが考えている以上に日本史に強い大きな影響を与えています。

す。いや、甲賀の人たち自体が陰で日本史を操っていたかもしれません。それが忍びの技術である情報収集力があるわけで、このまちから出てくる古文書をもっと読み解いていくと甲賀忍者がすごいことをしていたのかがわかるかもしれないです。陰にいます。ただ、いるんだかないんだかわからないけど、すごい闇の力で日本史全体に強い影響及ぼしている、しかもその人たちが甲賀にいたんです。これは魅力的です。



▲水口町三大寺での古文書調査

磯田さんが

忍者を研究

テーマにしたのは？

磯田 私は、歴史学上見過ごされているものや研究しにくいものほど闘志を燃やします。忍者はいるかいないか分からないとか、忍者は資料を残さないから学術的研究は無理だとか言われるからこそ、10年前くらいから研究を始めました。実際に、甲賀に来てみたら忍者の生活の後が生き生き残っています。学術論文にできないだろうと言われていた忍者をしっかりと研究するということをまずは重要視しました。忍者は、火薬だとか薬物医療関係も取り扱っていましたが、忍者を研究すると日本における化学の進歩や歴史につながります。武士は農村に住んでいるとか、主君は一人だけとか、農耕に従事しながらなおかつ侍であるはずがないという江戸時代の歴史の教科書的なものを裏切るものが全てここにあるわけです。これを見てみると本当の江戸時代像はわからないだろうというので、忍者を研究するという資料調査に入ってきたわけです。

調査で苦労したことは、やっぱり既に資料が無くなっていることです。そ



▲忍者の子孫渡辺家の現地調査

もそも忍者なので記録があっても、それを持っている人自身もその内容を知らないことがまだまだあります。出てきたとはいえ資料が少ないので、資料をより集めるには市民皆さんの協力が必要です。